

追 加

2022 (R4) 年度

教員資格及び教育内容等の自己評価

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部 ・学科等 の名称	専任教員数								非常 勤教 員	専任教員 一人あた りの在籍 学生数	備考
	学院長 副学院長	学科長 補佐	教務主任 補佐	教員	計	基準 数	うち 理学 療法 士又 は作 業療 法士 数	助手			
理学療法学科	2人	2人	2人	9人	15人	9人	11人	人	36人	12.8人	
計	2人	2人	2人	9人	15人	9人	11人	人	36人	—	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
☐	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
☐	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
☐	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
☐	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野（基礎・専門基礎・専門）	指定規則教育内容	担当授業科目名	担当コマ数	担当教員	
				氏名	職名（専任・兼任）
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	心理学	10	岡野邦夫	兼任
		哲学	10	橋詰史晶	兼任
		医療倫理	10	高柳清美	専任
		政治学	10	岸田健司	兼任
		歴史学	6	江川ひかり	兼任
			4	矢本彩	兼任
		コミュニケーション論	10	山際清貴	専任
		スポーツ社会学	10	河野隆志	専任
		物理学	10	鈴木一男	兼任
		生物学	10	市野素英	兼任
		情報処理演習	20	植竹駿一	専任
		体育実技Ⅰ	20	河野隆志	専任
			20	本多尚基	専任
		体育実技Ⅱ	20	本多尚基	専任
		英会話Ⅰ	10	浅田幸善	兼任
		英会話Ⅱ	10	浅田幸善	兼任
		医学英語Ⅰ	10	浅田幸善	兼任
		医学英語Ⅱ	10	浅田幸善	兼任
		健康科学	10	河野隆志	専任
		情報リテラシー	10	高柳清美	専任
専門基礎分野	人体の構造と機能および心身の発達	解剖学Ⅰ	20	江川薫	兼任
			4	吉田俊爾	専任
		解剖学Ⅱ	24	吉田俊爾	専任
		解剖学Ⅲ	24	吉田俊爾	専任
		機能解剖学Ⅰ	12	小関博久	専任
		機能解剖学Ⅱ	10	小関博久	専任
		機能解剖学Ⅲ	10	平田史哉	兼任
			10	多米一矢	専任
			12	鴨下亮太	兼任
		生理学Ⅰ	20	市野素英	兼任
		生理学Ⅱ	20	市野素英	兼任
		運動学Ⅰ	14	原田憲二	専任

専門分野			18	高柳清美	専任
		運動学Ⅱ	10	植竹駿一	専任
		運動学実習	22	原隆之	専任
		運動生理学	10	刈谷文彦	兼任
		人間発達学	10	原隆之	専任
	疾病と障害の 成り立ちおよび 回復過程の促進	病理学	10	伊藤春雄	兼任
		臨床心理学	10	山際清貴	専任
		内科学Ⅰ	10	池田憲	兼任
		内科学Ⅱ	20	加藤祐子	兼任
		整形外科Ⅰ	10	小関博久	専任
		整形外科Ⅱ	20	小関博久	専任
		整形外科Ⅲ	10	小関博久	専任
		整形外科Ⅳ	20	小関博久	専任
		神経内科学Ⅰ	10	池田憲	兼任
		神経内科学Ⅱ	20	池田憲	兼任
		精神医学	2	黒田みゆき	兼任
			8	米田恵美	兼任
		小児科学	6	清水教一	兼任
			4	三寫典子	兼任
		臨床スポーツ医学	6	栗山節郎	兼任
			6	米川正悟	兼任
			8	川島敏生	専任
		スポーツ外傷・障害学	12	小関博久	専任
	保健医療福祉と リハビリテーション の理念	リハビリテーション概 論	20	齋藤育洋	専任
		医療福祉論	10	小野賢一	兼任
		生活環境学	12	原隆之	専任
		医療統計学	10	高柳清美	専任
		研究方法論	10	高柳清美	専任
	基礎理学療法学	理学療法概論	20	佐野純平	専任
		運動療法基礎学Ⅰ	12	原隆之	専任
		運動療法基礎学Ⅱ	10	原隆之	専任
		リスク管理学	10	川島敏生	専任
		基礎理学療法学	10	植竹駿一	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	20	川島敏生	専任
	理学療法評価学	理学療法評価概論	10	原田憲二	専任
		検査測定学Ⅰ	12	佐野純平	専任
			10	植竹駿一	専任
		検査測定学Ⅱ	10	澤田譲治	専任
			12	佐野純平	専任
		検査測定学Ⅲ	22	川島敏生	専任
		検査測定学Ⅳ	12	澤田譲治	専任
			10	齋藤育洋	専任
		検査測定学Ⅴ	20	山際清貴	専任
	理学療法治療学	動作分析学Ⅰ	20	原隆之	専任
			10	佐野純平	専任
		動作分析学Ⅱ	12	植竹駿一	専任
			8	澤田譲治	専任
		運動療法学Ⅱ	20	石谷勇人	兼任

		物理療法学Ⅰ	20	原田憲二	専任
		物理療法学Ⅱ	22	原田憲二	専任
		装具学	20	植竹駿一	専任
		義肢学	10	齋藤育洋	専任
			10	原隆之	専任
		日常生活活動Ⅰ	10	山際清貴	専任
		日常生活活動Ⅱ	12	澤田譲治	専任
			10	山際清貴	専任
		疾患別理学療法Ⅰ	20	川島敏生	専任
		疾患別理学療法Ⅱ	22	山際清貴	専任
		疾患別理学療法Ⅲ	10	山際清貴	専任
			10	植竹駿一	専任
			20	澤田譲治	専任
		疾患別理学療法Ⅳ	10	網本さつき	兼任
		疾患別理学療法Ⅴ	22	宮川哲夫	兼任
		疾患別理学療法Ⅵ	10	宇治川恭平	兼任
			10	杉田優斗	兼任
		疾患別理学療法Ⅶ	10	山際清貴	専任
		疾患別理学療法Ⅷ	20	高柳清美	専任
		疾患別理学療法Ⅸ	10	齋藤育洋	専任
		疾患別理学療法Ⅹ	6	川崎智子	専任
			2	小野萌子	兼任
			2	菅原優季	兼任
		疾患別理学療法Ⅺ	4	石井斉	兼任
			8	多米一矢	専任
	地域理学療法学	隣接領域論	4	中島明子	兼任
			4	北村香	兼任
			2	原田登子	兼任
		地域理学療法学Ⅰ	10	原田憲二	専任
		地域理学療法学Ⅱ	4	原田憲二	専任
			2	西海奉成	兼任
			2	板倉尚子	兼任
			2	町田溪谷	兼任
	臨床実習	見学実習	<u>1</u>	実習調整者	専任
		地域リハビリテーション実習	<u>2</u>	実習調整者	専任
		評価実習	<u>3</u>	実習調整者	専任
		総合臨床実習Ⅰ	<u>8</u>	実習調整者	専任
		総合臨床実習Ⅱ	<u>8</u>	実習調整者	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準、方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準、方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療機関の見学	1年後期	リハビリテーション概論	1年前後期
		理学療法概論	1年前期
通所リハまたは訪問リハの見学	2年後期	生活環境学	2年後期
		地域理学療法学	2年後期
評価実習	3年後期	検査測定学	2年前後期
		動作分析学	3年前後期
総合臨床実習	4年前後期	運動療法学	3年前後期
		疾患別理学療法	3年前後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
☐	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
☐	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
☐	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
☐	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
☐	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
☐	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
☐	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
☐	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
☐	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	教職員全体会議・学校関係者評価
委員名（委員長）	小関 博久
組織の開催頻度	1年に一度（コロナ禍で対面での会議は開催しなかった）
組織の取り組み内容	- 教育改善の研修会の開催（コロナ禍で開催しなかった）
	-
	-
	-
自己点検・評価結果の公表	自己評価 http://dl.multidevice-disc.com/dl/51342-b072e68083d75128329ba18141ebc5c5 学校関係者評価 http://dl.multidevice-disc.com/dl/51341-d7b206ace0017dd05e7c0e70b4c4191a

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	理学療法学科会議
	委員構成等	理学療法学科教員
	改善の仕組みの実際	指導要領に基づくカリキュラムおよびシラバスの評価を行う。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

- ・ 臨床実習におけるハラスメント防止のための体制の強化を行う。
- ・ FD (faculty development) の講習会を開催する。
- ・ 自己点検・評価による体制改善を目的とした小委員会を立ち上げる。